

今月の重点活動

■指導農業者・青年農業者 労務管理に関する経営研修会を開催

岐阜地域指導農業者連絡協議会及び青年農業者連絡協議会は、会員の資質向上と交流を目的に合同で研修会を実施している。

今年度2回目の合同研修として、1月13日に労務管理に関する経営研修会を開催し、7名の会員が出席した。研修会では、農業分野の労務管理に詳しい社会保険労務士を講師に招き、これまでに実際にあった身近な労務トラブルを事例に、事前対策や発生時の対応について紹介していただいた。出席者からは、「一度雇用すると、一方的な解雇は違法となることがわかった。採用時にしっかり判断し、納得したうえで雇用することの重要性を理解した。」との意見が聞かれた。

農林事務所では引き続き、農業者会の活発な活動に向けて支援していく。

(地域支援第二係・園芸産地支援第二係)



【講師の話熱心に聞く参加者】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー 岐阜ブロック視察研修会を開催

本県では、農業経営に自ら参画し、地域活性化等に貢献する女性農業者を「岐阜県女性農業経営アドバイザー(通称 GLAMA)」に認定している。

当所管内ではGLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック会員19名が、自らの資質向上を目的に研修会開催等の組織活動を実施しており、農林事務所はその運営を支援している。

1月28日、「地域農業の活性化を考える」をテーマに視察研修会を企画し、アクアイグニス(三重県三重郡菰野町)と味の素(株)東海工場(同県四日市市)を訪問した。アクアイグニスでは地元食材を活用した食体験施設を、味の素(株)では製品への思いやこだわり、衛生管理が徹底された製造施設等を視察した。

GLAMAは地域の女性リーダーとして農業委員やJA理事等の立場での活躍が期待されることから、地域農業の活性化の参考となる事例やアイデアを収集する良い機会となった。

農林事務所は組織活動を通じて、GLAMAの取り組みを引き続き支援する。

(園芸産地支援第一係)



【視察研修の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 第51回岐阜県いちご共進会 地方審査を実施

岐阜県いちご共進会は、県内いちご生産者の栽培技術や出荷物の品質向上等を目的に開催されている。岐阜地域では、1月下旬に農林事務所及びJAの担当者でいちごハウスを訪問し、草勢や着果等の生育状況、葉かき・摘果や病虫害発生程度等の作業状況等について地方審査を実施した。

1月は、株の着果負担が大きくなる一方、低温・短日・低日射と生育環境が良くないため、草勢管理が難しい時期である。そのような時期においても、ハウス内の環境管理や摘果等の適切な作業の実施により、適度な草勢を維持している生産者は高い評価となった。地方審査で上位となった生産者については県審査に推薦し、出荷物審査等を経て最終結果が決定される。

農林事務所では、地方審査の結果を踏まえ、いちご生産者がより良い栽培管理を実践できるよう、栽培指導を継続する。

(園芸産地支援第二係)



【農場審査を実施する審査員】

■だいこん 岐阜市園芸振興会だいこん部会「祝大根」反省会を開催

正月の縁起物として、関西地方の雑煮等に使用される祝大根が12月17日から12月26日にかけて概ね計画通りの約60万本が出荷された。

1月20日にJAぎふ清流支店で行われた反省会では、大阪から市場担当者が来訪し、生産者、関係者らとともに、次年度に向けた安定出荷について意見交換が行われた。市場担当者からは、「品質管理の徹底をお願いしたい。」「伝統ある祝大根の産地として今後も期待している。」といった意見が聞かれた。農林事務所からは、今年度の生産出荷に関する課題を踏まえ、次年度に向けた土づくりや栽培管理のポイント、GAPの観点から見た出荷調製時の注意点や対策について研修を行った。

農林事務所では引き続き、祝大根の安定生産、品質改善に向けて、研修会や生育調査に基づく情報提供等、栽培支援を行っていく。



【反省会の様子】

(園芸産地支援第一係)

■トマト 立枯病発生状況調査を実施

近年、冬春トマトの養液栽培において、土壌伝染性病害である立枯病の発生が問題となっている。

農林事務所では、県農業技術センターと連携した定期的な発生状況の調査、被害軽減に向けた勉強会の開催等を実施している。

1月上旬の調査においては、被害株の発生割合は約2%であり、ハウス内の病原菌を死滅させるための蒸し込みや葉かき作業後の薬剤散布、初発部位の除去等対策の実施により、昨年度より被害は軽減されている。

農林事務所では、引き続き発生状況の確認、対策の提案を行い、トマトの収量向上に向けて支援していく。



【立枯病の発生状況】

(園芸産地支援第一係)

■えだまめ えだまめ部会中央研修会を開催

1月27日、岐阜市の十八楼において、岐阜県園芸特産振興会主催のえだまめ部会中央研修会が開催され、JAぎふえだまめ部会役員や関係者等27名が参加した。

本研修会では、「えだまめ産地推進プラン」に基づきJAぎふ、全農岐阜、農林事務所が実施してきた取組みの成果や、兵庫県の農業労働力支援について事例発表が行われた。農林事務所からは、令和7年度に行ったえだまめの品種試験や遮熱資材の実証試験の結果、成果等について発表を行い、JAぎふえだまめ部会の喫緊の課題である夏期高温時の発芽不良や生育不良等の解消に向けた技術提案を行った。

農林事務所では、引き続き有望品種の選定や遮熱資材の実証試験を行い、安定生産に向けた技術支援を行っていく。



【取組成果について
説明を聞く参加者】

(園芸産地支援第一係)